

## 令和3年度上越地域若年者自立支援ネットワーク会議 会議録

### 1 会議名

令和3年度上越地域若年者自立支援ネットワーク会議

### 2 議題（全て公開）

(1) あいさつ

(2) 自己紹介

(3) 協議内容

ア 上越地域若者サポートステーション事業概要

イ 上越地域若者サポートステーション令和2年度事業報告及び令和3年度実施状況について

ウ 上越地域若者サポートステーション令和3年度の実施計画について

エ 上越地域若者サポートステーションと関係機関の今後の連携について

オ その他

### 3 開催日時

令和3年8月19日（木）午後2時から午後4時

### 4 開催場所

上越市市民プラザ 第2会議室

### 5 傍聴人の数

1人

### 6 非公開の理由

—

### 7 出席者氏名（敬称略）

・会 員：吉澤正好、芋川岳宏、鈴木潤子、梅谷守、小林泰心、板垣朗、山崎金二、五十嵐透子、諸橋孝二、牧野昭二、池亀智美、山崎幸恵、佐藤義明、岡田亜貴子、星野あいり、久保田直子、能見柔子、高宮輝行、池田隆、五十嵐裕

・事務局：上越市産業政策課 平原副課長、岡係長、高橋主任

上越地域若者サポートステーション 浅野総括コーディネーター、田沢相談支援員

## 8 発言の内容

- (1) あいさつ
- (2) 自己紹介
- (3) 協議内容

ア 上越地域若者サポートステーション事業概要

イ 上越地域若者サポートステーション令和2年度事業報告及び令和3年度実施状況について

※議題アとイは、関係する内容のため、資料1～5-1に基づき事務局から一括説明

○質疑・意見等

質問・意見なし

ウ 上越地域若者サポートステーション令和3年度の実施計画について

※資料6～11-1に基づき事務局から一括説明

○質疑・意見等

質問・意見なし

エ 上越地域若者サポートステーションと関係機関の今後の連携について

※資料12、12-1に基づき事務局から一括説明

オ その他

(事務局：岡係長)

- ・年に一度の会議ですので、各機関における取組内容や課題、また、これまで説明のあった内容に関してのご意見等、皆様から一言ずついただきたい。

(上越公共職業安定所：吉澤会員)

- ・令和2年度の求人等の状況について、説明させていただく。妙高出張所管内を含めた数字になるが、新規の求人は、前年度と比較してマイナス11.3%減少している。求職については、前年度と比較してマイナス5.3%減少している。新型コロナウイルス感染症の影響により、求人も求職も、減少したというような状況である。
- ・令和3年度については、4～6月の3ヶ月分になるが、求人の方は増加傾向となっている。求職については、前年に引き続き減少となっている。特に若年の20、30代の求職がかなり減少している状況である。
- ・求人内訳について、主要産業としては、例えば製造業や卸小売業、宿泊飲食サービス業、医療福祉、建設業など、求人を産業別に見てもかなり増加している。これについては、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年はかなり減少していたが、その反動なのか、今年度に入ってかなり増加している。

(糸魚川公共職業安定所：芋川委員)

- ・糸魚川公共職業安定所は、糸魚川市を管内としている。

- ・数字に関しては、ほとんど上越と一緒であり、新規求人や新規求職有効求人、有効求職とも、令和2年度は、その前年に比べれば減っているような状況である。今年度に入ってから、上越と同じで、求人については、少し増えているが、求職に関しては、そこまで増えていない。年齢を見てみると、若い世代や中年世代は、それほど増えておらず、高齢者の方は増えている状況である。

(障害者就業・生活支援センターさくら：鈴木会員)

- ・当センターは、労働局の配置を受けて職員を5人と、新潟県の配置を受けて1人、上越市のサポーター事業として1人配置している。また、新潟県テクノスクールの精神障害者訓練委託コーディネーター事業として1人配置しており、全体で8人体制運営している。
- ・就労支援というところでは、サポステとも事業内容が重なるところが多々あるが、当センターでは、障害の有無や病気を抱えている方、働く困難さを持っている方を対象に就業と生活の支援を行っている。
- ・直近の当センターの登録者数は、1,166名である。就労中が令和2年末で742名おり、求職中や求職活動に至っていない人は400人程度いる。
- ・新潟県から委託を受けている障害者職場実習支援事業について、令和2年度の利用実績は80件あり、その内、42件程度が最終的には就労に繋がっている。
- ・少し古い情報になるが、令和元年度に就職した人の半年経過時の定着率は、90.7%であり、1年経過すると80%台までに低下している状況である。
- ・サポステと連携することが多々あり、最近のケースとしては、高校を卒業して就職した方が、途中で離職に繋がってしまい、サポステに相談していく中で、精神科への受診が必要になる方や、障害の診断が必要になる方がいる。
- ・49歳まで対象年齢の幅が広がったというところでは、離職した人の中には精神疾患をお持ちの方がいるのではないかと感じている。障害者の就労支援と、サポステの就労支援とどのように連携していけるか模索しているところである。

(NPO法人えちご若者元気塾：梅谷会員)

- ・元気塾としては、産業カウンセラーや社会福祉士の有資格者がボランティアで活動していただいている。また、居場所の拠点においても、地域振興局近くで民家を無償でお借りして運営している。基本的に毎週木曜日やっており、その日だけスタッフが常駐している。スタッフが若者たちと一緒に畑作業をしたり、食事をしたりという中で支援のあり方などのヒントを模索している。来ている若者たちの主な就職先としては、タクシーの運転手やスーパーのバックヤードなどがある。
- ・夕方5時過ぎになると、就職しているけれども、やっぱり場所がよかったのか、O Bの方々が居場所に集まってきて交流を深めている。

- ・現在、主に 130 人程度がコアメンバーとなっており、男女構成は概ね半々、年代は、20 代から 40 代となっている。
- ・せっかくの機会なので、一つご検討いただきたいことがある。サポステで基本的にニートの方々を受け入れていただいているが、その中で、サポステでは受け止めきれない人がいたときに、その方々が、もしかしたら他の施設であれば、フィットする可能性もあると思う。せっかくこのように連携させていただいているので、そういった方々がいたら、元気塾にもご紹介いただければと思う。糸魚川でも先日、「ポコあぽコ」という、ひきこもりの方がメインで運営を開始している。そういったところにも、糸魚川市などを通じて、ご紹介していただけたらありがたいと思う。

(上越商工会議所：板垣会員)

- ・商工会議所としては、会員の地元中小零細企業ということで、人手不足がかなり深刻な問題となってきている。
- ・その中で、ハローワークから毎月のようにデータをいただいているが、高校生の就職希望者は、2 年ぐらい続けて内定は 100%というふうに聞いている。ただ、今ほども話があったが、それがずっと続くかということは、会議所もアンケートを行っているが、3 年以内やそれよりも早い時期に離職してしまうといった事業所もかなりある。
- ・その中で会議所としては、高校生に対する就職セミナー、それから大卒者に対するセミナーをやっている。コロナ禍ということで、各企業も新卒に対してリモートで就職の説明を行っている。会議所の大卒セミナーについては、卒業後 3 年以内であれば可としているので、ぜひ参加いただきたい。
- ・一応若年者ということで 49 歳までであるが、そういった方に社会復帰して働いてくれば、地元にとっては非常にありがたいと思う。
- ・高校生で、新型コロナウイルス感染症の影響で地元就職したいという方が増えており、大学生も東京とかに行くが、地元に戻って就職したいという方も割合としてはかなり増えている。新卒に関してはこのような状況である。
- ・分かる範囲で教えていただきたいのだが、資料 1 の中で全国の若年無業者の数は 50 万人とあるが、上越市ではどのくらいの人数がいるのか。

(産業政策課：五十嵐会員)

- ・答えられる数字を持ち合わせていない。

(上越商工会連絡協議会：山崎会員)

- ・商工会は、小規模事業者が主流になっており、これまでもやってきてはいるが、引き続き、若者の就労支援に対して商工会員に周知していき、受け入れ側になるので、理解いただくようにしたいと思う。

(上越教育大学：五十嵐会員)

- ・大学が直接何かするという事はないが、ハローワーク上越から直接大学に来ていただきサポートしていただいている。大学にはプレイメントプラザという、就職や面接をバックアップしていくシステムがあるので、良い形で関わっていければと思うが、大学生も教育実習などがあり、忙しいところがある。教員養成系の大学であるため、就職先のメインは、教員採用試験や公務員試験といったことになってくるが、たまに大学の学生がサポステを利用していることがあり、学内の利用しにくさがあるのか、学外の相談機関があるとサポートを受けられやすいのではないかとと思う。まだまだ、連携していく余地は残されていると思う。

(高田南城高等学校：諸橋会員)

- ・本日は、大変有意義な会に参加させていただき感謝している。
- ・本校の教職員向けの研修会にすこやかにくらし包括支援センターに来ていただいたり、ハローワークにもお世話になったりと、今後もよろしくお願ひしたい。上越教育大学には、通年で連携をさせていただき、非常に助かっている。
- ・先ほどの資料6について、「若者サポートステーション事業」のところで、本校と連携を図る上で、一方的で申し訳ないが、こんなことをしていただけるとありがたいと思ったものが、相談支援事業の「(1) 基盤的支援メニュー」の、「③自己を知ることに関するメニュー」というのは、自立支援活動の中でこんなことを、サポートステーション事業であるならば、本校と連携できるといいなと考えていた。さらに、実践的メニューの中で、これはハードルが高いかと思っているが、段階を追いながら自立かつ自立支援が必要な高校生に、プロの方が高校の現場に来ていただいて、何か指導していただけると非常にありがたい。また、本校の教職員にも伝えられると、少しは安心しながら力強いサポート体制ができるかと感じている。また、検討とともにご連絡差し上げたいと思う。

(新潟県立上越テクノスクール：牧野会員)

- ・学校案内のパンフレットとプレミアムオープンキャンパス開催のチラシを配布させていただいた。学校案内のパンフレットについて、当校では6つの訓練科を開講しており、2つは、高卒などの新卒の方を対象にしたものとなっており、4つは要件不問としたコースとなっている。そういった訓練を通じて就労支援を行っている。
- ・プレミアムオープンキャンパス以外にも、毎月「ワークトライアル」という職場体験の事業や通常のオープンキャンパスを開催しており、体験ができる場を提供している。
- ・テクノスクールでは、1日7コマの講義を行っており。午前中は学科、午後は機械などを使って実技を行っている。訓練だけでなく、あいさつをきちんとする、時間や期限を守る、人前で話す能力を含めて重要視しているのは、5Sの整理、整頓、清掃、清潔、しつけについてである。どのような職場でも5Sは必要であると考えており、

訓練を通じて職業人としての生活態度の習得を行っている。サポステ事業のジョブトレやコミュニケーション講座、ビジネスマナー講座など、ステップを踏んでの支援は非常に大切だと思っている。今後も様々な情報交換などを通じて協力していきたい。

(高田西城病院：池亀会員)

- ・当院では、一般外来の他に専門外来を2つやっており、そのうちの一つが発達障害外来になる。平成29年から東京から専門の先生を招いて行っており、開始当初の受診者は、多くない印象であったが、ここ数年かなり増えている印象である。テレビなどで発達支援が紹介される機会が増えており、以前は家族が勧めて受診するケースが多かったが、ここ最近は、ネットの情報などで自分が該当していると思い、受診するケースが増えてきている。その他に、会社の方が「この人発達障害なのではないか」と感じて、本人と話し合ったうえで受診に付き添ってきたというケースがいくつかある。
- ・発達障害は、身体的な検査だけでなく、心理検査が診断を付ける主なものとなるが、診断を付けることだけが目的でなく、検査の中で何が得意で不得意なのかを明確にし、それを本人にフィードバックするように心がけている。自分を知ってもらって、自分に合った仕事を選んでいただいたり、自分の苦手を理解し周囲の人に助けてもらおうといったところをわかるように説明している。
- ・その中の、診断を付けただけでなくというところで、昨年度から、自閉症スペクトラム症向けのコミュニケーションや自分の感情のコントロールなどを目的としたプログラムを開始した。その中で、就職に結びつけることはすごく大変なことで、自閉症スペクトラムの方は、想像力がすごく欠けている方が多く、「就職活動まずどうしよう」といったところから苦勞される方が多い。そういったときに、サポステに相談させていただき、実際に就職に繋がった方が数名いたので、感謝している。
- ・今年度も実施しており、2グループ実施している。1つは、初めて就職中の人を対象に行っている。就職している中で、会社の同僚とうまくやれないなど、コミュニケーションの困難さを例に挙げて一緒に改善のヒントをとるようなことをプログラムに取り上げて行っている。申し込み数が多いので、困っている方は多いと感じている。今後も関係機関からの支援をお願いしたい。

(新潟県産業労働部しごと定住促進課：山崎委員)

- ・新潟県としては、平成29年から、2つの事業を、若年者と就職氷河期世代を対象として行っている。1つ目としては、「自立支援ネットワーク化推進事業」ということで、県内5ヶ所のサポステに委託し、各地域の支援機関とネットワークを結んでもらうため、講演会やセミナー等を実施して、ネットワークを築くなど支援機関と連携してもらっている。その他、協力企業、就労先企業の開拓等に関わる部分について委託している。令和2年度途中からは、内閣府の「地域就職氷河期世代支援加速化交付金」

というものも活用して、令和2年度予算では、5サポステ合計で65万円だったものが、交付金を活用した結果、令和3年度については、1,327万円まで予算規模が大きくなっている。

- ・令和3年度からは、就職氷河期世代にも力を入れていくため、臨床心理士による心理カウンセリングに力を入れている。もう一つの事業については、「職場実習受入促進奨励金」として、サポステが実施する職場実習を受け入れる企業に対して、1人1日受け入れるごとに1,000円を協力費として企業に支給している。国も「職場体験プログラム」というものを実施しているが、こちらは様々なルールがあり、そこから外れた部分について新潟県がカバーするため実施している。職場実習については、就職氷河期世代の方からの希望はあまりなく、若年者の方が中心となっている。こちらの令和2年度予算は、総額126万円の予算だったが、令和3年度については、交付金を活用し、253万円と約2倍になっている。

(新潟県上越地域振興局企画振興部：佐藤会員)

- ・労働相談所で様々な相談があるが、職場の中の間人間関係で悩むといったものがある。若い人が就職してもすぐ辞めてしまう現状に対して、「職場におけるコミュニケーション研修」といったものを計画している。テクノスクールの協力のもと、管理職向けの研修を1回、若手社員向けの研修を2回実施する。募集は開始しているが、想定以上の申込をいただいている状況である。

(妙高市観光商工課：岡田会員)

- ・私どもの部署としては、市のホームページや広報等を通じて、各商工団体やハローワーク等の事業説明会などの周知を行っている。
- ・初めてこの会議に出席させていただいたが、就労支援の部署である当市の福祉介護課の職員も同席できればよかったと感じている。今回の会議の案内も文書も観光商工課ということで来ていたが、就労支援の部署にも共有できたらよかったなど感じており、今日の内容はしっかり共有したいと思っている。会議の案内についても、関係する部署にも出していただけると良いかと思う。

(糸魚川市産業部商工観光課：久保田会員)

- ・糸魚川市におけるサポステ事業として、職業適性検査を3回、相談窓口を能生地区まで拡大していただき、取組が充実してきており、感謝している。そのような中で、行政として何ができているかという点、開催会場の準備、周知しか協力できておらず、心苦しい状況である。今後何ができるかと考えたときに、サポステの内容は複数の課に関係する業務だと思っており、この会議の内容を踏まえて関係課との打ち合わせを行っていきたい。

(糸魚川市福祉事務所援護係：能見会員)

- ・私は、援護係で生活困窮の自立支援機関の生活相談員として業務に携わっている。今現在、関わりの多いケースとして外国人に関するものが増えてきており、恐らく新型コロナウイルス感染症の影響かと思っている。県外からの移住で当市に来ている方もおり、そういう方に関しても、経済的な支援や生活の基盤を立て直すために、こちらの就労支援という形で関わっているが、なかなか資源に結びつかず、いつも右往左往しながら働いているところがあるため、関係機関と連携を取っていきたい。日本語が全く喋られない外国人の就労支援の相談があったが、今まで例のなかった相談も出てきている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、一つの企業だけでは生計が立てられないため、ダブルワークという形での相談も増えてきている。その他、対象者の本人が相談したけれども、家庭環境を見ると、ひきこもっている家族が中にいたり、債務整理が必要であったり、多様的で包括的な支援が必要な方がおり、私どもの援護係だけでは対応ができないと思っており、様々な機関と連携を取り合う必要があると思っている。他市ではどのように取り組んでいるのか、どこまで行政として対応したほうがいいのか戸惑いながら業務に当たっているため、上越市や妙高市の取組みを参考にさせていただきたい。
- ・糸魚川市は物理的に遠方ということで、相談などのサービスを受けにくいといった声もあるが、同等のサービスを受けることは難しいか。

(上越地域若者サポートステーション：浅野統括コーディネーター)

- ・現状の対応としては、出張相談という形で対応している。ただし、出張相談だけでは対応しきれない部分もあるため、我々、私も含めて、相談員が日時を設定して対応させていただいている。こちらまで来られる人には、来ていただくようお願いしているが、来るのが難しい人に対しては、時間を設けてこちらから出向くといったことを地道に取り組んでいる。

(糸魚川市福祉事務所援護係：能見会員)

- ・パソコン講座など、様々な行事を開催されているかと思うが、各管轄で行っているのか。

(上越地域若者サポートステーション：浅野統括コーディネーター)

- ・その通りである。従来、要望があり実現してこられたものと、まだできていないものについても、なんとか取り組んでいきたいと考えている。

(すこやかなくらし包括支援センター：高宮会員)

- ・当センターは、福祉に関する市の総合相談窓口ということで、普段から相談を受けている中では、対人関係が苦手であるとか、引きこもり気味だといった若者から中高年の方まで、本人やご家族から相談があったりして、必要に応じてサポステなどの関係

機関に協力いただいて、支援をつなげたりしているところである。

- ・市内に11か所ある地域包括支援センターについて、こちらは基本、高齢者の方の相談支援というのが中心の機関だが、令和2年度からは、障害の方に関する相談、引きこもりに関する相談、生活困窮に関する相談といった相談業務を行うことになった。まだ数は多くないが、地域包括支援センターを通じて、関係機関に繋がっていくケースが少しずつ出ている。本日、関係機関の皆さんから話を聞くことができたので、地域包括支援センターに情報をフィードバックしたいと思うので、必要な際には、ご協力をお願いしたい。

(上越市青少年健全育成センター：池田会員)

- ・当センターには、保護者の電話相談をきっかけに来所いただき、その後、その家の子どもが定期的に当センターに通うようになった例が10人いる。自分は、この4月から配属されているが、こういった方々がいるといったことも初めて知ることになった。また、世間一般にもまだまだ知られていないと思う。さらに、この奥には、家から出られないといった方々がまだまだいると思っている。当センターに通ってくる子どもたちは、まだそれでも社会に一步踏み出そうとしている人たちだと思っている。ところが、ここから社会に一步踏み出すというのが、ものすごく難しいと思う。まず、「働く気がない」。これは、嫌っているということではなく、「人が怖い」といった社交性障害になると思うが、私たちとは話せるが、とてもじゃないが会社には行けないといった人がいる。また、以前は勤めていたが、上司から「お前これもできないのか」「それさっき言ったじゃないか」など厳しいこと一つでも言われたら辞めてしまう。そして、もう二度とそういうところに行けないと思ってしまいが、働かないとお金がないしといったことに悩む人が当センターに来られて相談を受けている。そういった話を聞いていると、様々な制度があっても、この制度の中で当てはめて救えない人がいるということがすごく感じるようになった。体制に合わせていくのか、そういう人たちの実態を調べて、そういう人たちの実態からそういった働き場を少しずつ増やしていくようにしていくのかという視点に少しずつ変えていかないと、引きこもった人たちは、この先もずっと引きこもったままであると感じている。

(産業政策課：五十嵐会員)

- ・ありがとうございました。皆様から、様々なご意見いただいて、私も福祉課に所属したことがあり、生活保護の方や障害者の方と接した経験があるが、なかなか就労まで繋げるのは難しいと実感もしている。私もサポステの健康セミナーに参加したが、一緒に体を動かしながら参加者の話を聞くことや、引きこもっていたために体力的に難しい人がいれば、個々の状況を確認しながら、就労に繋げていくように取り組んでいると聞いている。

- ・本日の会議を持って、各機関の担当と繋がりができたと思っているので、今後は個々でも情報共有ができていけばいいかと思っている。また、状況に応じてこういった会議を開催できればと思うが、皆様から「この話をしたい」「この話を聞きたい」といった意見などがあればこの場で伺いたいがどうか。

※意見なし、終了

## 7 問合せ先

上越市産業観光交流部産業政策課 TEL : 025-526-5111

E-mail : sangyou@city.joetsu.lg.jp

## 8 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。なお、資料11については、出席者のみの配布となっています。